

「通信・放送の融合・連携環境における標準化政策の在り方〈平成 21 年諮問第 16 号〉答申（案）」に対する意見募集結果

※ 意見募集期間：平成 23 年 2 月 11 日（金）から同年 3 月 14 日（月）及び同年 3 月 31 日（木）から同年 4 月 20 日（水）

	意見提出者	意見	情報通信政策部会の考え方
1	インテル (株)	<p>私どもは、総務省がこの度まとめられた、ICT と日本における現在の標準化を取り巻く状況に関する完成度の高い調査に対し敬意を表します。そして、報告書の結論に記載される次の重要な 2 点について報告書の内容に同意するコメントを申し上げさせていただきます。</p> <p>○ 報告書では、グローバルまたは国際標準と日本の国内標準との関係の重要性が強調されております。現在の情報通信産業は国際競争力を持つためにサプライチェーンが複数国にまたがるように、真のグローバル環境にあります。そして最も成功している ICT 製品はグローバルマーケットの為に製造されたものになります。日本がグローバルな標準化活動を行う組織に参加していくことに高い優先順位をつけることは、日本が世界市場で良好な立場を得ることと共に、世界市場の成長に日本が参加する点において非常に重要な点です。</p> <p>○ 3 章(p.42)において、「フォーラム標準としてスピード感を持って標準が策定され、その後、国際標準化機関において標準化される過程が非常に多くなっており、フォーラム標準に対する戦略的な関与が重要。」と記されています。現実には、現在情報通信技術の最も重要な標準化は「フォーラム」で行われています。グローバル標準を規定する多様な組織が、情報通信技術の標準化を行うことが、情報通信技術の標準化の強さを与えております。</p>	本答申（案）に賛同するご意見として承ります。

2	I T I	<p>ITI は、報告書草案のなかで ICT 標準化活動の展望について総務省が徹底した分析をされたことに賛辞を贈ります。我々は、総務省のとりまとめに大方賛同いたします。とりわけ次の点を支持いたします。</p> <p>ITI は、"グローバル"な ICT 標準は、ISO、IEC、ITU のような公的な"デジュール"標準化団体で作られた規格にとどまらない、との総務省の認識を支持します。ICT 業界には、フォーラムやコンソーシアムで作られ、世界中で採用、使用されている多くの規格があります。</p> <p>ITI は、報告書草案で総務省が表明した見解は我々が定義する以下のグローバルスタンダードの特徴と一致していると考えます。：</p> <ul style="list-style-type: none"> a. グローバルスタンダードは、グローバル市場のニーズに幅広く対応します b. グローバルスタンダードは、自発的に世界中で導入、実装されることで、その妥当性が実証されます c. グローバルスタンダードは、コンセンサスペースで、透明且つすべての当事者が参加する業界主導の標準化プロセスから生まれます。 <p>ITI は広義において ICT のグローバルスタンダードは、技術革新と成長を刺激するために重要であることに同意します。</p> <ul style="list-style-type: none"> a. あらゆる種類の標準化団体から規格が出ることで、相互運用性の向上が促されます。 b. 標準化団体の多様性により、ICT 業界はタイムリーに市場の要求に対応することができます。 <p>従って、フォーラムやコンソーシアムでのグローバルな ICT の標準化が広がりを見せていること踏まえ、ITI は、日本企業の利益が考慮されるよう日本の産業界が ICT のフォーラムやコンソーシアムに積極的に関与すべきであるという点に同意します。</p>	本答申(案)に賛同するご意見として承ります。
3		<p>報告書草案 46 ページ (欧州連合における"オープン標準"の定義、表 3 ITU) が欧州相互運用性フレームワーク (EIF) バージョン 1.0 に示されている"オープンスタンダード"の定義を参照している点にご注意いただきたいと思いま</p>	ご指摘を踏まえ修正いたします。

		<p>す。EIF バージョン 1.0 は EIF バージョン 2.0 に置き換えられています。これは、2010 年 12 月 16 日に欧州委員会によって発表され、オープンスタンダードの定義は EIFv.2 の 26 ページ、セクション 5.2.1 に示されている内容に変更されました。(で欧州相互運用性フレームワーク Annex II を参照 http://ec.europa.eu/isa/strategy/doc/annex_ii_eif_en.pdf)</p>	
4		<p>また、米国政府は、先ごろ、国家科学技術会議の下部組織である標準化小委員会に対し、特定の技術分野における標準化への連邦機関の参加の有効性"に関する意見を求めました。(U.S. Federal Register Citation 76 FR 3877, http://www.federalregister.gov/articles/2011/01/21/2011-1005/effectiveness-of-federal-agency-participation-in-standardization-in-select-technology-sectors-for を参照)</p>	<p>いただきました情報は、今後我が国の標準化政策を検討する際の参考とさせていただきます。</p>
5	I E E E	<p>総務省は、標準がイノベーションの育成と日本の組織が国内および国境を越えて競争力のあるための基礎となり、したがってそれが日本のマーケットの競争力を高めることになるということを認識されています。IEEE は、総務省の標準化政策に関する国内および国際環境を分析し、標準化活動促進と政策の確立および標準化の優先分野選定のための提言を行うという決定を高く評価します。IEEE は、総務省が効率性を高め、今日の世界の標準化に関する組織の性質を議論し、協力を強化するという目的のために着手しているプロセスの一助となれるよう以下のコメントを提出します。</p>	<p>本答申(案)に賛同するご意見として承ります。</p>
6		<p>効率性の確立</p> <p>今日、標準(スタンダード)は複数の標準化組織を通じて迅速に開発され、しばしば世界中の産業によって影響されている。二重の標準化は産業の効率と有効性に影響を及ぼしかねない。既存の標準を用いることにより、努力の不必要な重複を回避し、国際相互運用性を高め、ひいては開発過程の効率性の促進が可能になる。グローバルな標準化に対する人為的な障害は避けられるべきであるし、グローバルな標準化組織への参加は奨励されるべきである。</p>	<p>本答申(案)に賛同するご意見として承ります。</p>

7	<p>今日の確立された国際標準化組織の性質</p> <p>IEEE の標準化の概要についての考えは、標記報告（案）の第1章で述べられているそれとは多少異なる。この報告（案）では二つの基本的なタイプの標準化組織が記されており、それはデジュール標準とフォーラム標準になっている。IEEE は「フォーラム」標準の開発者とされている。</p> <p>IEEE は WTO/TBT が国際的に定めた標準化の方針に従うグローバル標準組織であり、その方針も厳密な過程に則っている。IEEE は標準化作業において様々なフォーラムやコンソーシアムのプログラムが関わることを支援しているが、IEEE 自体がフォーラムあるいはコンソーシアムではない。</p> <p>マルチ・ステークホルダーによる標準化へのアプローチは最高レベルの優秀さと専門的知識をもたらす。また、バランスある参加と参加における平等性は解放主義の要諦である。この理由により、IEEE は ISO、IEC、ITU 等の正式の国際組織を越えてステークホルダーとともに国際的な標準化組織への日本の参加の増加を図るという総務省の提言を強く支持する。</p>	<p>ご指摘を踏まえ修正いたします。</p>
8	<p>協力の強化</p> <p>世界の相互のつながりの範囲が発展するにつれ、技術は触媒としての役割を發揮する。市場の互換性を確実にするための地域化されたニーズや必要条件に合わせ、標準はさらに多くがグローバルに開発されている。スマートグリッド、インターネット・プロトコル、クラウド・コンピューティング、あるいは携帯電話などの多岐の技術にわたる分野では、標準化について国際的な仕様の効率的で適切な設計を実現するためにグローバルな働きかけが国境を越えて必要とされている。</p> <p>日本の技術専門家はグローバル規格が開発される場でアイデアを分かち合う責務があると信ずる。またそのような参加を通じて、日本発のイノベーションはグローバルな市場開発と革新に寄与しつつ、最も効果的にグローバル標準に組み込まれることになるだろう。（正式な国際組織を越えてある）グローバルな標準設定組織との協力の増加は、グローバル標準に寄与し、日本においてもそれ以外の世界でも市場</p>	<p>本答申（案）に賛同するご意見として承ります。</p>

	<p>や社会で必要とされているものを正しく認識することになるだろう。協力の増加は、グローバルなレベルでの技術やサービスが認識されればいつでも調和のとれた標準化作業へとつながるだろう。</p>	
9	<p>IEEE について－ 標準開発のグローバル・リーダー</p> <p>IEEE は 125 年の技術革新の歴史をもつ世界最大の技術専門家学会である。総数 40 万人以上におよぶ会員が世界の 160 以上の国々でその活動の指揮をとり参加している。</p> <p>IEEE はおよそ 1,300 の現行標準と現在開発中のプロジェクトを持つ産業標準のリーディング・デベロッパーでもある。これらの標準は、電力エネルギー、バイオメディカルとヘルスケア、情報技術、テレコミュニケーション、交通、ナノテクノロジー、情報保証といった様々な分野の産業に影響力を及ぼしている。</p> <p>これらの標準は世界中の専門家の協力を得て二つの異なるプロセスを経て開発されている。ひとつは個々の専門家から成り、もう一方は標準開発に関わる大小様々な団体から成る。いずれの場合も、意見の一致、正当な手続き、開放性、主張する権利、公平性の五つの重要な価値にその活動を支えられている。またいずれのプロセスも、すべての参加者が同等に認められており、標準開発の過程において対等の根拠を有している。</p> <p>IEEE 標準の開発は、グローバル市場への参入のための技術開発の手段を提供している。IEEE によって開発された標準は、高いレベルでの技術の優秀性と広汎な応用性が評価を得ている。IEEE 標準のプロセスは WTO の定める国際標準開発機関の基準を十分に満たしており、多くの IEEE 標準が ISO および IEC に適用されている。</p>	<p>いただきました情報は、今後我が国の標準化政策を検討する際の参考とさせていただきます。</p>
10	<p>「図5 代表的なデジュール標準とフォーラム標準の策定プロセスの概要」における「IEEE 規格の策定プロセス」の「WG（作業部会）による規格の素案の作成」について、「WG 案は、75%以上の賛成で承認される。」との記述があるが、「WG 案は、WG によって定められたルールにより承認される。」に修正を求める。</p>	<p>ご指摘を踏まえ修正いたします。</p>

11	<p>「図5 代表的なデジュール標準とフォーラム標準の策定プロセスの概要」における「IEEE規格の策定プロセス」の「スポンサー投票」に係る記述について、「スポンサー」の定義は「IEEE内で当該標準案に対し、技術面、標準の維持管理等の責任を持つグループ」とされているが、以下のように修正を求める。</p> <p>「IEEE内で、技術面、開発面、標準の維持管理等の責任を持つグループ。スポンサーはIEEEによって定められたルールに従い、関心のある団体と実質的に影響を受ける団体がバランスをとって投票できるよう確認をしながら、その標準案への投票に責任を持つ。75%以上の投票率と75%以上の賛成で承認となる。」</p>	<p>ご指摘を踏まえ修正いたします。</p>
12	<p>個人</p> <p>キー局ごとに色々と整合性を整えたほうがいい。 →チャンネルIDが、東京では、 1NHK-G 2NHK-E 4NTV 5テレ朝 6TBS 7テレ東 8CX 9MX となっているが、 北海道では、 1HBC(TBS系) 2NHK-E 3NHK-G 5STV(NTV系) 6HTB(テレ朝系) 7TVH(テレ東系)</p>	<p>ご意見は、答申(案)に対する意見募集の対象外ですが、ご要望と承ります。</p>

8UHB(CX系)

となっているが、BS デジタルとどのように、日本全国チャンネル ID を整合性をもった形に変えるべき。

上記から、案として北海道では、

1NHK-G

2NHK-E

4STV

5HTB

6HBC

7TVH

8UHB

に変えるべき。

これを日本全国キー局ごとに整合性がとれている形に再編成すべきです。

地方局の財政が厳しい、であるから、キー局を持株会社のようにして、北海道では、STV ではなく、日本テレビ北海道支社のような感じに移行できるように、放送法を改善すべき。

また、地方でも地上波で東京と同じ番組が見れるほうが嬉しい訳だ。

リアルタイムで日本全国平等に見れる番組編成が望ましい。

昨今は Twitter でネタバレなどもある。

KeyHoleTV のような仕組みで、東京にいなくても東京のテレビ見れる仕組みがあつてほしい。

もっと言えば、地方局の存在意義はないといえる。

現状は、キー局の番組にコマーシャルとニュースだけ地方版にかえてキー局番組を再送信している。

また、北海度の場合は、MX や TVK のような独立 U 局が必用である。

ラジオ放送をインターネットで放送を聞ける仕組みが規制があつてこれを緩和すべ

きだ。

USEN 社などが参入が望まれる。

現に、Radiko.jp の地区外でも好き勝手に世界中で聴けるほうが、ラジオ局にとっても有益ではないだろうか。

例えば、アメリカに出張しているものが、アメリカから東京 FM が聴けるというような物が望まれる。

STV をインターネットで視聴できるとかが望ましい。アメリカだろうが、イタリアからでも、日本の番組が見れば嬉しい。